

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100509		
法人名	有限会社 ヒューム		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	佐賀県佐賀市金立町大字金立1844-3		
自己評価作成日	平成29年8月19日	評価結果市町村受理日	平成29年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は緑が多く、民家改修の施設で家庭的で落ち着いた雰囲気があり、広い庭には様々な花や木が植えられ、庭の散歩をしたり、東屋では休憩やお茶会などを行い、四季折々の花や木の変化を楽しむことができます。一日一日を利用者様の生活リズムに合わせてゆっくりと過ごされ、利用者様優先のケアを心がけています。利用者様の意見を取り入れ、外出や行事、買物、天気の良い日はドライブに行ったり、散歩をしたりして家族様ができない事を補えるように支援しています。毎日の日課として下肢筋力低下予防の為歩行運動や上肢・下肢運動、脳の活性化の為のゲーム、塗り絵、貼り絵、計算ドリル、歌等その日の利用者様の希望に応じたレクリエーションを行い職員と利用者様がコミュニケーションを図りながら、一日一日をメリハリを持って生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内には日本庭園があり、四季折々の季節感が感じられる花や木が植えられており、門構えも素晴らしく落ちつきやすい空間が広がっている。入居者の意向に沿った外出、ドライブ、買い物なども頻回に行われている。入居者の家族と職員の情報共有もされていたり、地域からのお誘いで行事に参加するなど地域の密着力も強かったりと、連携がとられている。毎日の日常生活に沿った立位訓練などを取り入れられ、日常生活での機能訓練を自然に取り組めるような環境ができています。入居者の食事に対しても季節を得られる食材を取り入れられ食に対する意識も高い。ホーム内の壁には入居者の日ごろの表情などが見られる写真がありとてもアットホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも確認できるように、事業理念を休憩室や、家屋ホームに掲示し常に共有できるようにしている。理念に基づき、明るく元気に生活し入居者様と助け合いながら自立をめざし笑顔で生活できるように努めている。	目につきやすいよう玄関や台所、職員の休憩室に掲示されており、理念の共有を図られている。また、理念に沿ったサービスとなっているか会議で話し合い、介護計画にも反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の総会や川掃除への参加、地域の行事や祭りへの参加、地域の幼稚園と交流を図ったり、ホームの祭りへ地域の方を招待したり、地域ボランティアに来荘してもらい交流を行っている。	地域の祭り行事や避難訓練、近隣の幼稚園の交流があり、自治会長より案内などもあり、近隣住民とも顔見知りである。祭りの時でも地域のボランティアも受け入れをされて交流が図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の折に地域からの意見や要望を取り入れたり、地域の総会に参加してグループホームについて説明をしたり、自治会長さんと話をしたりして、疑問等聞いたり、相談がある時は相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営内容の理解をしてもらったり、日々の日課や行事の報告を行って、地域の方と意見交換をしたり、災害時の応援依頼をしたり、相談に乗ってもらったりしている。	年6回、定期的に行われており、議事録も整理されている。その後参加されていない方には郵送されたり、ホーム内で閲覧できるように玄関に設置されている。会議後に次の日程を決め、参加率を挙げたり、意見を出しやすいようにされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者の方にはわからない事や困った事があたら電話や直接言って相談を行い情報を得るようにしている。	家族、地域からの相談があり不明な点があれば市役所、民生委員、地域包括支援センターに相談を行っている。また、空床情報などのお知らせも行っている。電話での相談より、面会をして直接の対話の相談が多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を毎年実施し、内容の理解に努め、職員全員周知している。身体拘束を行わない取り組みを行い、日中は玄関、縁側、全居室内の窓の施錠はせずに開放している。	現在は身体拘束は行う入居者はおらず、拘束は行っていないが身体拘束の研修は内部、外部研修があれば参加している。研修会の後には必ず職員周知をしている。玄関の施錠も日中はせず、入居者の出入りは自由にできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修の外部への参加や施設内で研修会を毎年行い、虐待について学び、虐待を行わないよう注意を払い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師による研修会を毎年行い、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員全員が学び、わからない事があったら関係者等に相談したりして理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については家族が分かりやすく説明を行い、疑問や不安などある場合はその時に質問をもらい説明している。疑問がある時は後日でもすぐ対応できるようにしている。法律改正時は家族会を開催し説明を行い理解や納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、利用される機会が少ない為に、家族会や面会時に意見や要望、疑問等が無いか聞く等し、内容に応じて職員間で話し合いをして運営に反映させるようにしている。	玄関に意見箱を設置されているが、意見や要望は直接相談されずに対応ができるようにされている。意見がなくても帰宅される時に必ず近日の状況や状態報告が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行ったり、その時々で疑問や気になる事があった場合は、話し合いを行い、職員の意見や要望、提案等を反映させるようにしている。	月に1回のミーティングは行っている。新規の入居者について、不安や不明点があれば、家族の聞き取りであったり、申し送りノートを利用している。気になることがあれば、その時に話し合いの場が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボーナス時に自己評価を行い面談をし、ボーナスに反映したり、資格取得時は給与面に反映するようにしている。個別で面談を行い、個人個人の意見を聞いたり、自分の希望の労働時間で働けるよう配慮したり、職員が働きやすいよう環境・条件整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量を把握し、新人には管理者や勤務年数の長い職員が丁寧に位置から基本的な介護を教えたり、毎月施設内研修を開き、職員全員参加したり、外部研修へ参加する機会を確保したり、積極的に資格取得をするよう、研修に参加させ、資格取得や研修参加費は費用の負担をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが行っている同業者との交流会や研修会への参加、グループホーム協会の研修への参加を行い交流を図って、自分の施設では行っていないことなど学び取り入れるなどしてサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が希望する事はできるだけ取り入れ、本人が安心して生活できるよう、相談に乗ったり話を聞く等して徐々に信頼関係作りを行っている。又ケアプラン作成時には家族や本人様と一緒に話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安にならないように、十分な話し合いを持ち、不安な事や疑問に思っている事、要望などを受け入れ家族との関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が他のサービス利用の要望があり、必要と思われる時は話し合いを行い、できる範囲で他のサービスが提供できるよう支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状の状態も人によって様々だが、まずは本人が主になって生活できるよう、職員は本人の要望を聞き、支えになれるような関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会への参加、外出・外泊時の協力や面会へ来てもらえるよう声掛け行ったり、ケアプラン作成時、家族と職員と一緒に本人を支えられるよう話し合いを持つなどして家族と本人との絆を大切にしながら共に支えて行けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会も随時行われている。行きつけの床屋や顔見知りのいるスーパー等に出掛ける機会を作ったりして関係が途切れないようにしている。	お墓参りへ行ったり、友人の所へ行ったりされている。行きつけのスーパーで買い物もされている。今まで行きつけの床屋もいかれていて、今までの関係が途切れないように交流を持たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のほとんどが毎日居間で過ごされている。介護度は違っていても、身体的に低下している方のお世話を元気な方が気遣われたりして支え合われている。居室にいても職員が随時訪室し声掛けを行ったり、会話をしたりして孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所されても面会へ行ったり、家族と連絡を取る等している。相談があった際は必要に応じて相談に乗ったりして支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き、その意向を尊重しながら希望に応えられるように努めている。困難な場合は家族に相談し協力を得たりして、本人の思いを組み取れるように努めている。	入居者の希望を取り入れ、必要な買い物など実践している。意向の把握が困難な入居者に対しては家族を通して意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族に生活歴や馴染みのある場所、今までの暮らし方、生活環境等聞き情報収集したり、サービスの経過についての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人、一日の過ごし方についてはそれぞれ違うが、本人が過ごしやすく生活しやすいような環境作りを行っている。本人の有する能力や心身状態について日頃から観察を行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い希望を聞いたり、ミーティングにて職員の意見やアイデアを聞き入れ、取り入れる事ができる事は取り入れるなどして本人の現状に応じた介護計画を作成を行っている。	介護計画の更新や変更時には話し合いを行い、職員と家族も一緒に考え作成し、ミーティングを行い、入居者の状況に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況や結果、本人の気づきや毎日の変化や状態など職員同士の情報共有の為に詳しく記録に残している。ミーティング時に気付いたことがあれば話し合い介護計画の見直しをしている。又家族へ随時情報共有の為に記録の開示を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向やその時必要なサービスがある時は受け入れている。訪問看護、歯科往診、マッサージなどを取り入れ、本人が希望される時は家族と話し合い、サービスを受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と顔馴染みになり、1人で外へ出られても地域の住民の方の見守りや支援を受けて安全に生活ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診は家族の協力により行われている。往診医により往診を受け、気になる事がある時は相談をし対応してもらい関係性も良い。往診医より家族へ直接説明が行われるので安心して過ごされている。	家族の協力もとかかりつけ医を受診をされている。家族対応が困難な入居者に対してはスタッフが対応している。他科受診時には、お薬ノートや記録表を渡している。24時間対応可能な訪問看護や往診医との連携も図れ相談支援体制もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時や気になる事があつたら施設看護師へ報告し早期対応ができるよう常に観察や情報共有を行っている。訪問看護師へも状況の変化時は報告行い連携を取れるよう情報提供をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の情報提供は文書にて行われる。往診医から紹介状を出され利用者、職員、家族への説明等病院より詳しく行われている。入院時も面会に行き、状態の把握をし早期退院ができるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は家族、職員、往診医と話し合いを状態に応じて随時行い、家族には今後の意向について書面にてもらったり、施設内でできる事を説明する等している。施設内でもミーティングを状態の変化に応じてその都度実施し、対応の仕方について話し合いを持ったり、訪問看護等へ情報提供し情報共有を図っている。	家族の要望があれば、終末期に向けたケアを行っていくために、家族、看護師、施設長、管理者との話し合いを行っている。ターミナル時には訪問看護と連携し、24時間体制で連絡が取れるなど、情報共有を図っている。夜間は、宿直者の協力を得られることにより、職員の精神的不安の軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて初期対応の仕方や処置方法について定期的に見守りより勉強会を実施したり、AEDの取り扱い方などの研修に参加し、職員がパニックにならないよう実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害等避難訓練を2ヶ月に1回自主訓練にて実施し、年に1回消防署より立会のもと指導訓練を行っている。全居室にはスプリンクラー設置済で二階廊下には煙探知機を備え火災対策を行っている。運営推進会議にて避難についての話し合いを適宜行い、地域訓練に参加する等して顔馴染みになり協力体制を築いている。	2ヶ月に1回は自主的に避難訓練をされている。避難場所に行く時間をはかり、避難場所の確認を行っている。年に1回は消防署の立ち合いにて指導訓練を行っている。避難訓練に地域の協力も得られ参加されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格や状況などに合わせて個人個人で言葉のかけ方や話し方に気をつけて対応している。入浴や排せつなどのプライバシーの保護についても本人の了承を取る等して努めている。	気になる言葉かけがあれば、職員間で注意をしあっている。トイレや入浴の際には、さりげなく言葉かけを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望はできるだけ聞けるよう努めている。買い物に行き自分でほしい物があれば選んで購入されたり、ドライブや外出等行きたい所への希望を聞き行く等している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれができる事も違うので、1人1人が何をしたいか、どう過ごしたいか、本人に聞いたり、提案して、職員と一緒に本人がやりたい事やできる事を行い各々過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選び着たり、整容、整髪、髭剃り、爪切り等身だしなみをいつでも整え、衣類の汚染がある時は交換し常に清潔に過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方に食後の台拭きや食器拭きを手伝ってもらい、手作りおやつ等希望を聞き、できる人には混ぜたり量ったりして手伝ってもらいながら、一緒に作っている。又外食へ出かけ、入居者様が普段食べられないような物を食べに行く等して喜んでもらっている。	できる方と後片付けや食器拭きを職員と一緒にされている。おはぎづくりのイベントもあり楽しみとなっている。外出する時はお弁当を持参して、季節を感じながら食事を楽しんでいる。回転寿司などの外食もあり、入居者の希望を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されている食事を提供し、個人個人に応じてキザミ食、ペースト食を提供している。なるべく自力摂取できるよう見守りや声掛けを行い対応している。時間に応じ水分補給を行い、お茶だけでなく牛乳、ジュース等希望の物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うよう声掛けし、自分でできる方は自分で行われる。できない方や見守りが必要な方は職員が傍で介助したり見守りや声掛けにて行われている。毎週木曜日に歯科往診にて口腔指導や口腔ケア義歯調整等を行ってもらい、相談がある時は相談行い連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツ着用している方も日中は布パンツや紙パンツに交換し1人1人に応じてトイレやトイレへ排泄誘導を実施し、各々の排泄パターンに応じた定時の誘導を行っている。	入居者の排泄の時間を把握して、さりげない声かけをしてトイレへ誘導している。入居時はオムツでも、現在はトイレやポータブルトイレでの排泄が可能となる方もおり、自立に向けた支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、飲食物の工夫や毎日の運動へ参加してもらい、身体を動かしている。便秘が見られる時は主治医へ報告し対応してもらい排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じ毎日入浴できるようにしている。拒否があった場合は時間を置いたり、中止にして翌日に入浴してもらう等して本人の希望に応じている。汚染時はその都度入浴やシャワー浴、清拭、陰部洗浄等行い清潔に努めている。	本人の希望に応じ、最低でも、週3回以上の入浴をされている。拒否があった場合は、無理強いせず時間をおいて声かけをされている。汚染時は、その都度、入浴・シャワーができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中昼寝を行いたい方は自室にて休息されている。就寝時間も1人1人違うので、自分が休みたい時間に休まれている。空調など調整し心地よく眠れるよう空間作りも行っている。夜間熟睡されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は職員2人で名前と日付を確認し本人の名前を呼んで返事してもらっている。自分で飲まれる方は手渡し職員の前で飲んでもらい、飲み込み確認を行っている。飲めない方は介助にて服薬されている。内服薬については内服一覧表にて個人個人の服薬については閲覧する事ができ職員周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵や塗り絵、歌等個人個人が好きな事をしたり、手伝い等できる事を職員と一緒にされている。気分転換に散歩やドライブに同行し外出を楽しんだり、嗜好品やほしい物がある時は職員と一緒に買い物に行き購入されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者様の希望に応じて、馴染みの場所や季節に応じてドライブや外出へ出かけられている。外出の難しい方でも状況に応じ散歩や外出ができるよう支援している。家族からの希望時は外出支援の協力をしたり、家族の協力にて地域の行事へ参加されている。	晴天時は、毎日のように外出やドライブに行かれている。また、家族と一緒に日帰り旅行をするなど、外出を楽しむ取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は自分で管理ができる方はお小遣い程度を持たれており、自分がほしい物を購入されている。レジではなるだけ自分でお金を払うようされており、金額がわからなかったり、小銭やおつりがわからない時は職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしい時は職員が電話を掛け本人に受話器を渡すと話をされたり、家族より電話があった時は本人へ取り次いでいる。手紙は書けない方が大半なので、電話でやり取りをされている。手紙が来た時は本人に渡したり読めない方は読んだりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や縁側にはいつでも座れるようベンチや椅子を置いたり、室内は過ごしやすい温度に設定している。電気も暖かな色味にしたり、臭いなどが無いよう常に清潔な環境作りに努め、こまめに掃除を行っている。季節の花を飾ったり、写真や貼り絵を掲示し居心地の良い空間作りを行っている。	外出や行事の写真の壁に貼られていたり、個々のアルバムを作られている。各居室に温度計、湿度計があり、居室の管理ができています。排泄の臭いはなく、外気との換気を常にされている。リビングを中心に回れるような廊下になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に置いてあるベンチで休憩したり、縁側の椅子に座って日向ぼっこをして過ごしたり、台所や居間等で各々が思い思いに過ごされている。又個人の居室にて話をしたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が自宅にて使用されていた筆筒やテレビ、布団や椅子、仏壇などを持って来られたり、家族の写真を飾ったりされ、自宅にいるような空間が少しでも作れ、各々が使いやすいように工夫されている。	今まで使い慣れた家具や仏具を持ち込まれ、棚やベッドの配置も家族との話し合い、入居者が使いやすいように工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に名札を下げ他の利用者様の居室と間違えないようにしたり、トイレに名札を下げ、トイレの場所が分かりやすいよう壁に矢印で示している。浴室は暖簾をつけて分かりやすいようにし、利用者様がわかりやすく、迷ったりしないような環境作りを行っている。		